Zennoh-akita agriculture+reform

# Za・あぐりふぉーむ

2021.9.6
Vol.19

**ナツズイセン**（ヒガンバナの仲間）

撮 影 日：令和３年８月２１日

撮影場所：秋田市　民家敷地

## 目次

生産現場情報：鹿角地域初の園芸メガ団地に挑戦～農事組合法人末広ファーム～・・・・Ｐ１～２
営農支援情報：適期刈取りで高品質・良食味米生産～令和３年産米収穫にむけて～・・・Ｐ３～４
ご　紹　介：県産青果物の冷蔵輸送の強化に向けて
～全農物流株式会社秋田支店が冷蔵車両導入～・・・・・・・・Ｐ５
ＪＡグループ「秋田米新品種サキホコレ研究会」発足・・・・・・・・・・・・Ｐ６
お 知 ら せ：秋の農作業安全月間が始まりました・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ７

## 生産現場情報

# 鹿角地域初の園芸メガ団地に挑戦～農事組合法人 末広ファーム～

1．法人設立の経緯

大館市との市境に位置し、末広地区の松山・土深井・大欠・石野の４集落で構成されるのが農事組合法人末広ファームです。

地域農業の維持・発展と効率化を図るため、平成２７年度から大区画ほ場整備事業（経営体育成基盤整備事業）が実施されており、令和４年度の完成を目指して終盤に差し掛かっています。

末広地区では、度重なる話し合いの末、ほ場整備完了後における営農の姿として大規模法人化を描いて、事業着手前の平成２５年２月、いち早く農事組合法人末広ファームを設立しました。

**代表　柳沢義一さん**

設　立：平成２５年２月
代　表：柳沢　義一
構　成：１１３戸（令和３年現在）
所在地：鹿角市十和田末広字家ノ下６-３

2．経営の概要等

令和３年は、１２０ｈａの農地で、水稲８４ｈａ（うち直播１３ｈａ）、大豆２０ｈａ、長ネギ１３ｈａ、キャベツ３ｈａを栽培しており、長ネギ・キャベツで販売額１億円超を目指した鹿角地域で初の園芸メガ団地に取り組んでいます。

水稲用機械、長ネギ・キャベツ用の機械のほか、ミニライスセンター（８０石６基ほか）、野菜選別集出荷施設、パイプハウス等に加え、管理厚生棟なども整備しています。

**（左から）野菜選別集出荷施設、管理厚生棟、ミニライスセンター**

末広地区の農地は米代川上流沿いに広がっていることから、石礫が非常に多い土質です。このためストーンクラッシャー用の外国製トラクター（２１５馬力）で土質の改良に努めており、取材日（８月２０日）も作業中でした。

長ネギのハウス伏込みでの冬期収穫やキャベツの雪の下収穫のほか、長ネギの高価格出荷が期待できる越冬大苗夏どり（７～８月）作型にも取り組み、周年的な栽培作業体系をしいています。

インターンシップの受け入れなど若手農業者の育成のほか、長ネギの収穫体験や詰め放題など消費者との交流にも積極的に取り組んでいます。

**ストーンクラッシャー**

**長ネギの調製作業**

３．今後に向けて

安全・安心はもちろんですが、会社の農産物生産の基本は「メダカの棲む、蛍の舞う田んぼづくり」を目指して地域農業の活性化を図ることです。

代表の柳沢義一（やなぎさわよしかず）さんは、ほ場整備工事後ということもあり、土壌が安定せず、生育・収量等が不安定な面もありますが、まずは土づくりに心がけながら、収量・収益性の向上を図って経営を安定させ、将来的には新規作物にも挑戦して野菜のセット販売などにも取り組んでみたいと語ってくれました。

**定植後のキャベツ**

**長ネギの収穫作業**

営農支援部 営農支援課　☎018-864-2461

## 営農支援情報

### 適期刈取りで高品質・良食味米生産

**～令和３年産米収穫にむけて～**

今年は、５月下旬の低温と強風により田植えや田植え後の活着が心配されましたが、一転して６月上旬から高温・多照で経過したことにより生育が回復し、平年より３日早く出穂期を迎えました。

仙台管区気象台は、東北地方北部の「梅雨入り」は６月１９日頃と平年より４日遅く、「梅雨明け」は７月１６日頃で平年より１２日早いと発表しました。

また、８月２５日発表した３か月予報では、気温はほぼ平年並みとし、９月の気温は、高い確率を３０％としています。

**出穂期の状況（各地域振興局調査、全品種の平均）**

| 全県 | | | 県北 | | | 中央 | | | 県南 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 本年 | 前年差 | 平年差 | 本年 | 前年差 | 平年差 | 本年 | 前年差 | 平年差 | 本年 | 前年差 | 平年差 |
| 7/31 | －２日 | －３日 | 7/31 | －２日 | －３日 | 7/31 | －１日 | －３日 | 8/1 | －１日 | －２日 |

注）地域としての出穂期であり、全品種平均の出穂期である。

**※県水田総合利用課発行「作況ニュース　第７号」参照**

**今年は、出穂期が平年より早まりましたので、刈取り適期を逸しないよう気を付けて高品質・良食味米生産を心がけてください。**

◇刈取り適期の判定

刈取り適期は、個々のほ場条件および栽培条件で異なるため、出穂後の日数、籾の黄化程度、出穂後の積算気温、枝梗の黄化程度などの判定方法を組み合わせて総合的に判断します。

◇各判定の刈取り目安

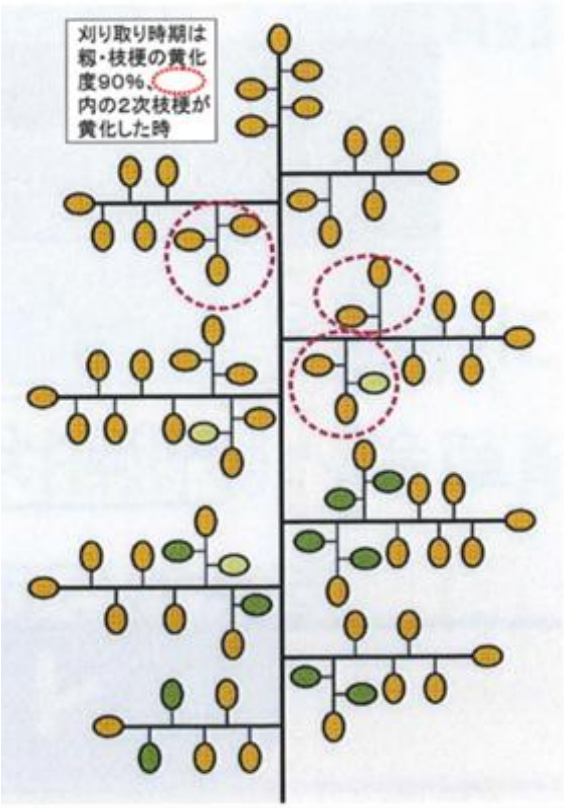
① 出穂後の日数は、早生品種（あきたこまち等）で４５日前後、中生品種（めんこいな・ひとめぼれ・ゆめおばこ等）で５０日頃となっています。

② 出穂後の積算気温は、出穂後の日平均気温積算値で、早生品種は950℃～1,050℃、中生品種は1,050℃～1,150℃が適期の目安です。青米割合は早生品種では950℃、中生品種では1,050℃を超えると10％以下となり、胴割れ米や茶米は、早生品種では1,100℃、中生品種では1,200℃を超えると増加し、特に高温年には胴割れ率が高くなります。

③ 籾の熟色では、黄化程度９０％の頃となります。登熟期間が低温および日照不足の場合にも積算気温に応じて黄化程度は進みますが、②に示す積算気温よりも遅れます。

④　枝梗の黄化程度では、穂の主軸の上から４～５番目の枝梗まで黄化したころです。

実際の刈取りにあたっては、刈取り適期の目安を目標とする積算気温の到達日と積算日照時間も考慮に入れ、籾の熟色と枝梗の黄化程度を確認し、総合的に判断しましょう。




**積算気温及び日照時間による刈取り時期の目安**

| 地域 | 出穂期 | | | 積算気温の到達日 | | 積算日照時間の到達日※ | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | R3（月/日） | 平年（月/日） | 平年差（日） | 950℃（月/日） | 1050℃（月/日） | 200hr（月/日） | 265hr（月/日） |
| 鹿　角 | 7/31 | 8/3 | −3 | 9/13 | 9/18 | 9/11 | 9/25 |
| 北秋田 | 7/27 | 8/1 | −5 | 9/5 | 9/10 | 9/2 | 9/16 |
| 山　本 | 7/29 | 8/3 | −5 | 9/7 | 9/11 | 8/28 | 9/8 |
| 秋　田 | 7/28 | 8/1 | −4 | 9/4 | 9/8 | 8/29 | 9/9 |
| 由　利 | 7/30 | 8/3 | −4 | 9/7 | 9/12 | 8/31 | 9/12 |
| 仙　北 | 7/30 | 8/3 | −4 | 9/7 | 9/12 | 9/3 | 9/16 |
| 平　鹿 | 7/31 | 8/4 | −4 | 9/8 | 9/13 | 9/8 | 9/22 |
| 雄　勝 | 7/30 | 8/4 | −5 | 9/9 | 9/14 | 9/7 | 9/20 |

注）出穂期は各地域振興局定点調査ほの平均。
気象データは各地域代表アメダス観測データを使用し、８月23日以降は平年値を用いた。
※日照時間から判断したあきたこまち570kg/10a収量水準での刈り取り適期判断の目安。

**※県水田総合利用課発行「作況ニュース　第７号」参照**

米穀部 米穀総合課　☎018-845-8030

## ご紹介

### 県産青果物の冷蔵輸送の強化に向けて
### ～全農物流株式会社秋田支店が冷蔵車両導入～

ＪＡ全農あきたは、全農物流株式会社秋田支店が導入した大型冷蔵車両に、県産青果物の冷蔵輸送をするため、県産青果物と秋田犬をデザインしたトラックラッピングを行いました。

当車両のラッピングは、秋田犬が走り出す姿で元気な産地を表現し、秋田弁の「秋田のんめものいっぺ積んできたどぉ！」には、新鮮でおいしい県産青果物を届けるメッセージが込められています。

８月６日には大館市のＪＡあきた北農産物流通加工センターから、最盛期のエダマメを積み、首都圏の卸売市場へ向けて出発しました。今後もネギやエダマメ、椎茸、キュウリを中心とした県産青果物を積み、月に８回～９回程度の県外運行を予定しています。

ＪＡ全農あきたは、全農物流株式会社秋田支店のほか、ＪＡや関係団体と連携し、鮮度保持のための冷蔵輸送強化と、新鮮な県産青果物の販売に努めます。

園芸畜産部 園芸課　☎018-864-2491

## ＪＡグループ「秋田米新品種サキホコレ研究会」発足

ＪＡ全農あきたは８月１８日、秋田市でＪＡグループ「秋田米新品種サキホコレ研究会」発足式を開催し、会員ＪＡの担当者と生産部会等の代表らが出席しました。

「秋田米新品種サキホコレ研究会」は、「サキホコレ」の栽培技術の向上や品質・出荷基準に基づく区分集荷の取り組み等をつうじて高品質・良食味生産体制の構築および他県産の良食味米との競合に打ち勝つ販売戦略確立のノウハウを蓄積、農業所得の向上と「サキホコレ」のブランド化に寄与することを目的に、ＪＡ全農あきたをはじめ、県が定める生産団体登録要件に基づきサキホコレ作付推奨地域管内ＪＡおよびＪＡ生産団体の中から選出された各１名で構成されています。

発足式では同研究会の設置要領を確認し、また今年度実証圃で得た試験データを「事業検討会」で共有する令和３年度の事業計画が示されたほか、秋田県とＪＡグループが一体となって販売していくための販売方針について確認しました。ＪＡ全農あきたの米穀部は「各ＪＡの栽培状況などをこの研究会で共有しながら、高品質なサキホコレ栽培を行い、全力で販売する」と話しました。

【同研究会の役員に選出された３名】

会長：ＪＡ秋田おばこサキホコレ生産専門部会会長　佐々木竜孝氏（写真中央）

副会長：ＪＡ秋田しんせいサキホコレ栽培研究会会長　齋藤靖氏（写真右）

副会長：ＪＡ秋田ふるさと秋田ブランド米栽培研究会会長　柴田康孝氏（写真左）

**令和４年産市場デビューに向け「サキホコレ」のロゴがあしらわれたトラックがお披露目されました。**

**令和３年産プレデビューに向け「サキホコレ」の認知度向上を図ります。動く広告塔として県内外を走り「サキホコレ」をＰＲします。**

## お知らせ

### ◆秋の農作業安全月間が始まりました◆

**運動期間：２０２１年９月１日～１０月３１日**

ＪＡグループでは、「秋の農作業安全月間」を定め、組合員とＪＡ役職員の安全に係る意識を啓発し、農作業事故防止の徹底を図っています。

Za・あぐりふぉーむ
Zennoh-akita agriculture+reform
JA全農あきた営農情報誌 Za・あぐりふぉーむ
第19号 令和3年9月6日発行
編集・発行 JA全農あきた営農支援部営農支援課 〒010-8558秋田市八橋南2丁目10番16号 018-864-2462